



木村 辰也<sup>1</sup> 北原 英明<sup>2</sup> 高野 恵介<sup>2</sup> 萩行 正憲<sup>2</sup> 御田 護<sup>3</sup> 富樫 隆久<sup>1</sup> 鈴木 健仁<sup>1</sup> 1茨城大学 電気電子工学科 2大阪大学 レーザーエネルギー学研究センター 3株式会社 M&M研究所



2014年 春季 第61回 応用物理学関係連合講演会 2014/3/18

## 2014年 春季 第61回 応用物理学関係連合講演会 2014/3/18 3/9 他研究動向内での本研究の位置づけ



R. Maas, et al., Nature Photon. 7, 907 (2013). ・金属の可視光領域で 誘電率の変化、 材質の特性も利用 *E*<sub>r</sub>: 正 0 負 (波長:短 大)



・3次元構造 ・金属は完全導体として 振舞う 構造のみで設計



D. M. Mittleman, et al., IEEE Trans. Microw. Theory Tech. **58**, 1993 (2010). ・2次元構造 テラヘルツ波領域





W. E. Kock. Proc. Inst. Radio Eng. **34**, 828 (1946). ・物理的なサイズ:大 Alumina to boundary X. Huang, et al., Nature Mater. **10**, 582 (2011). ・ポスト構造 ミリ波・マイクロ波領域









まとめ

## 全構造解析より屈折率0.52を有する凹レンズの 設計、作製を行った。

■ 作製した凹レンズの集光結果を得た。



![](_page_8_Picture_0.jpeg)

調f

## 本研究の一部は、総務省 SCOPE(122103011)、 公益財団法人 双葉電子記念財団の研究助成を 受けたものである。